

大雪山の火山活動解説資料（平成30年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～7）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。
20日から21日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、これまでと同様に、噴気温度が100℃以上の状態が継続していました。噴気孔及びその周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

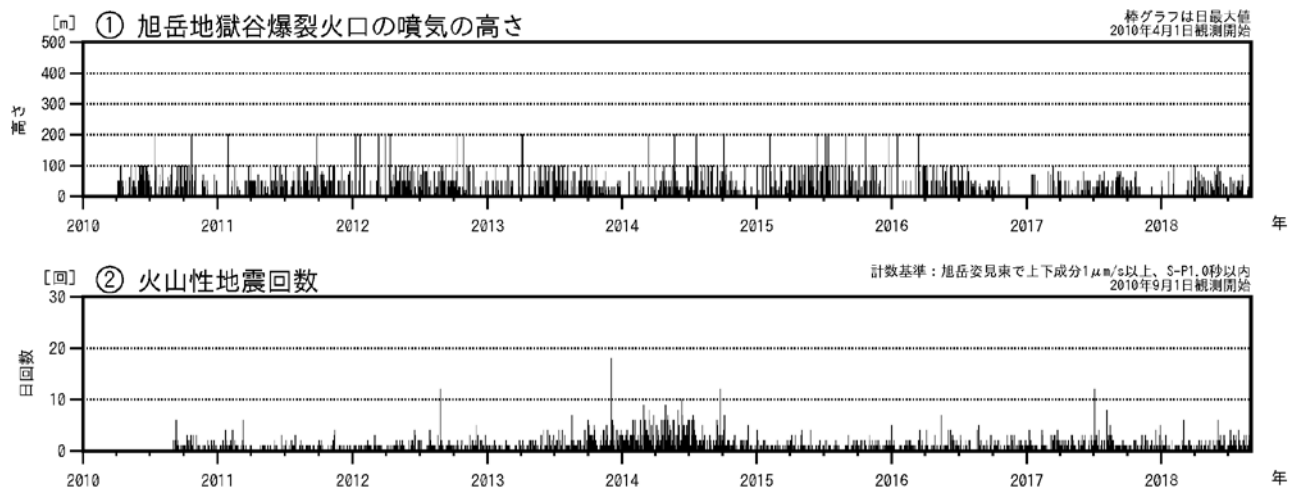


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2018年8月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次の火山活動解説資料（平成30年9月分）は平成30年10月9日に発表する予定です。

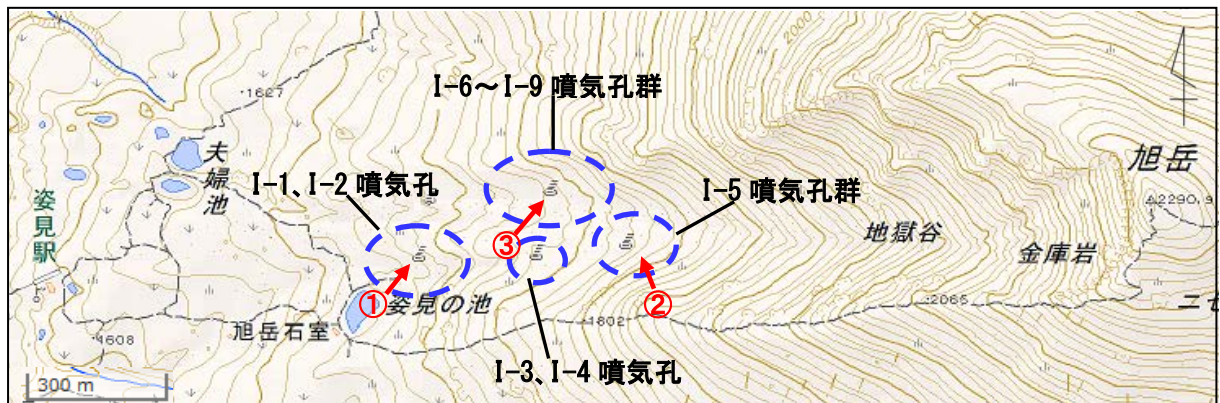


図 2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向（矢印）

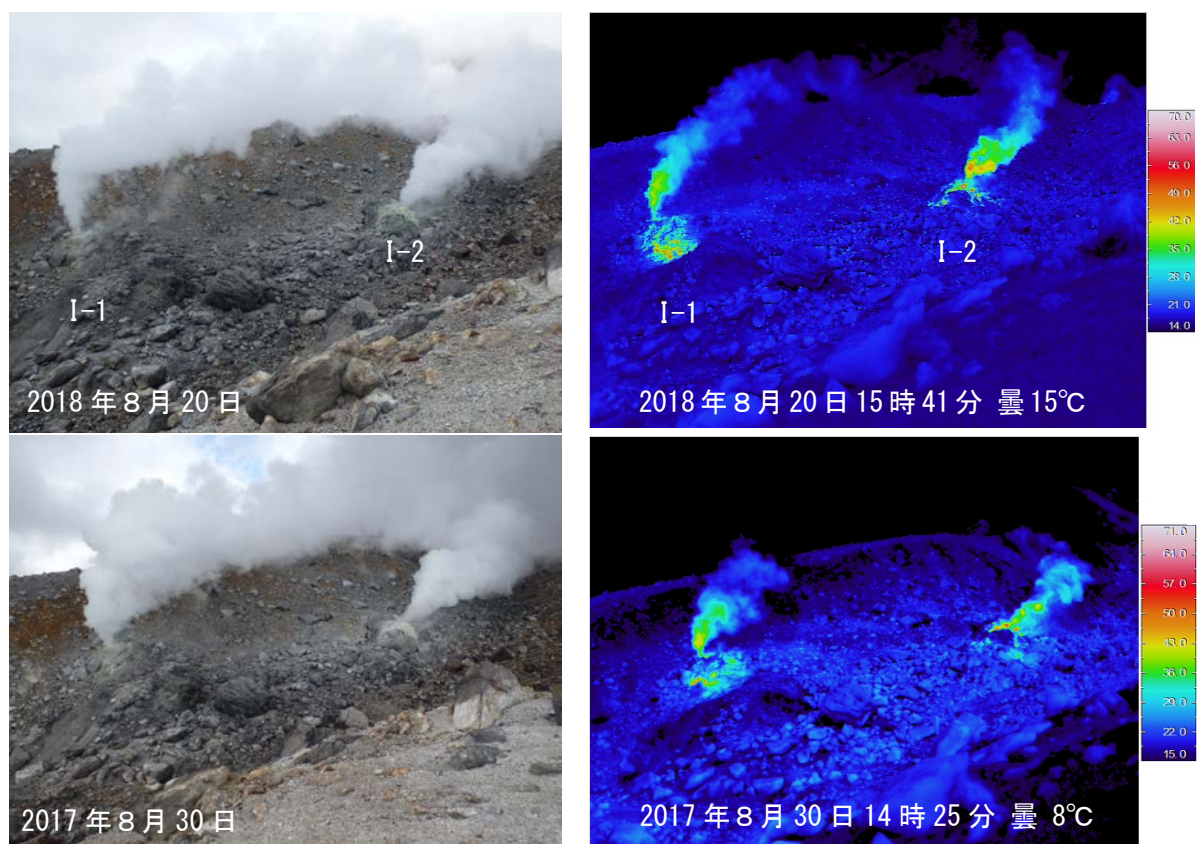


図 3 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による I-1、I-2 噴気孔周辺の地表面温度分布（図 2 の①から撮影）
・ 前回（2017 年 8 月 30 日）と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

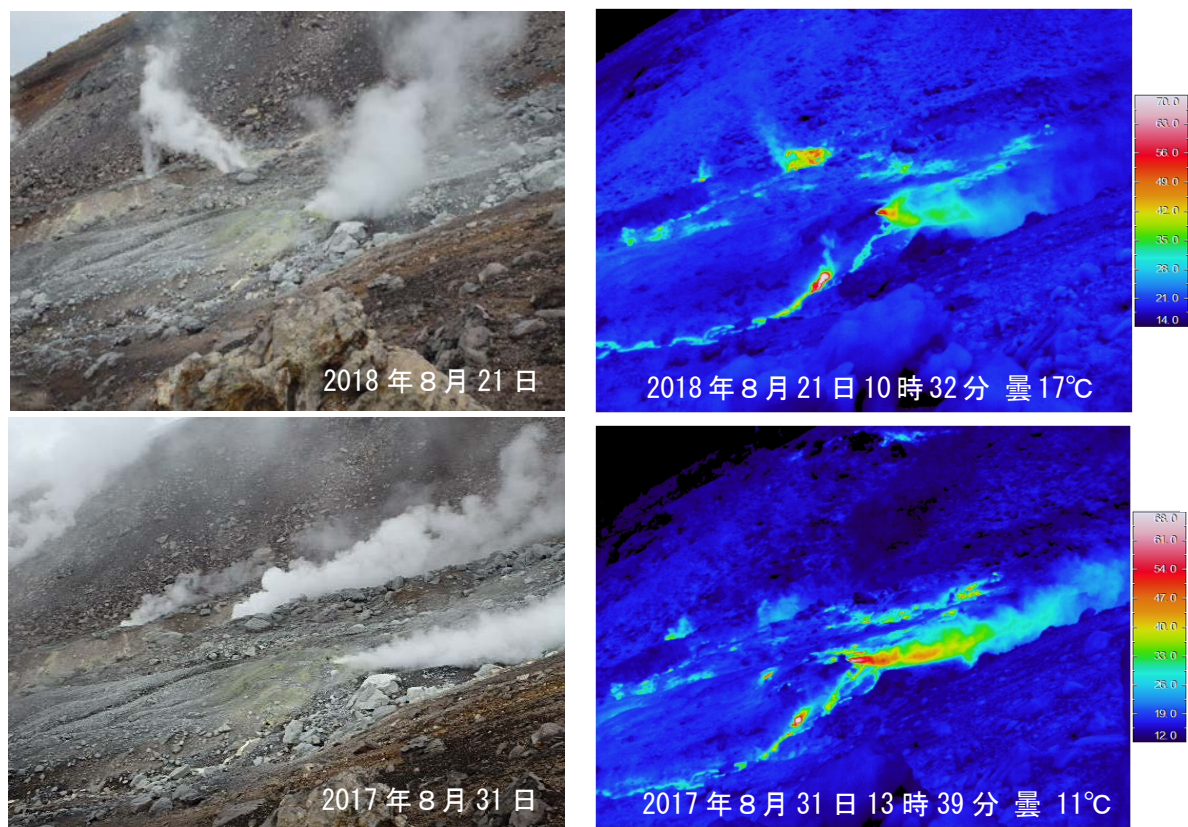


図 4 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による I-5 噴気孔群周辺の地表面温度分布（図 2 の②から撮影）
・前回（2017 年 8 月 31 日）と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

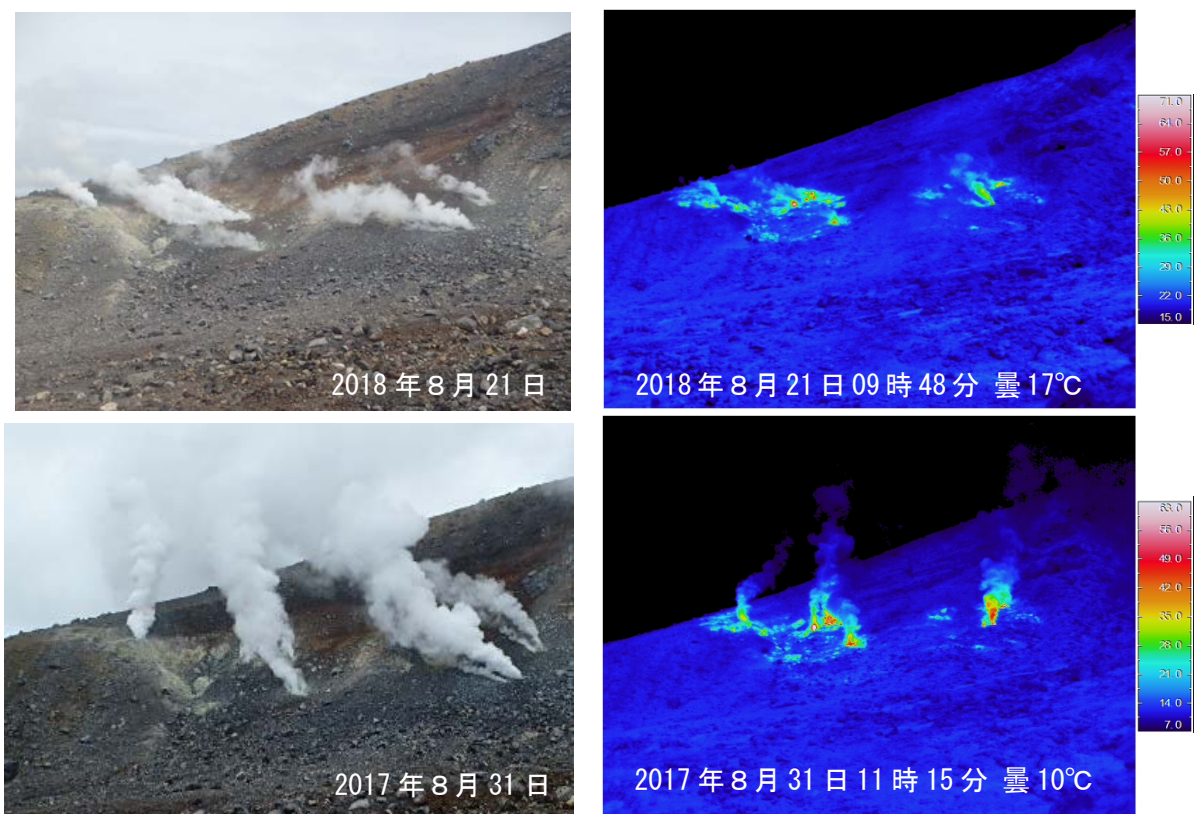


図 5 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による I-6 ～ I-9 噴気孔群周辺の地表面温度分布（図 2 の③から撮影）
・前回（2017 年 8 月 31 日）と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

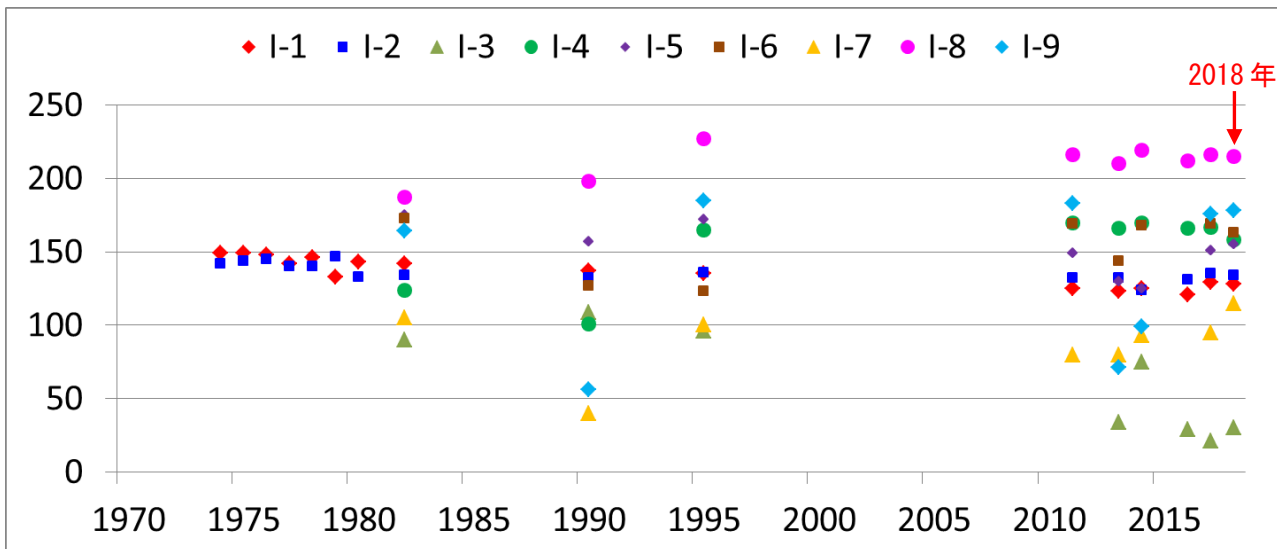


図6 大雪山 各噴気孔の最高温度

各噴気孔の位置は図2を参照

熱電対温度計による実測

- ・複数の噴気孔で、これまでと同様に、噴気温度が 100℃以上の状態が継続していました。



図7 大雪山 西側から見た旭岳の状況

(8月21日、^{ちゅうべつ こ ひがし}忠別湖東監視カメラによる)

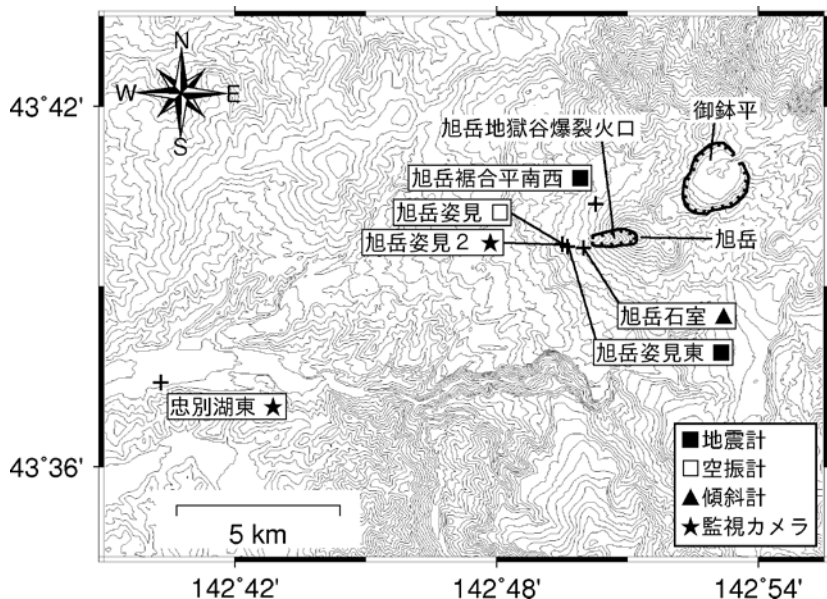


図8 大雪山 観測点配置図

＋印は観測点の位置を示します。